

言語文化教育研究学会 第11回年次大会

ミニ・ヒューマンライブラリー

～二人の若者の生き方と、
私とのつながりを考える～

ヒューマンライブラリーをご存知ですか？

その名のとおり、「人の図書館」です。人が「本」になり、その人の生き方や人生を語ります。「読者」は「本」を30分間借りることができ、「本」の語りを聴きます。お約束は「本」を傷つけないこと。「語り」に耳を傾け、尊重すること(申込み時に、フォーム記載の確認事項への同意をお願いいたします)。

今回のミニ・ヒューマンライブラリーでは、若手言語教師である2冊の「本」の語りをもとに、「読者」の皆様の生き方や、普段かかわっている活動とのつながりについて考える機会をつくりたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2025年3月2日(日)

11:50～13:30

(飲食可能です！)

会場

山口市産業交流拠点施設

KDDI維新ホール 205C

参加資格

- 参加費無料／会員・非会員問わず、言語文化教育研究学会 第11回年次大会に参加している方であれば、どなたでも参加できます。
- 当日は、すべての時間(11:50-13:30)の参加をお願いします。
- 定員を設けておりますので、可能な限り欠席はお控えいただけると幸いです。

注意事項

1. 対話シーンの録音・録画・写真撮影は禁止いたします。
2. 対話の内容は、この対話空間のみにとどめ、許可なくSNS等で拡散しないでください。

◆申し込み方法◆

お申し込みは、こちらからお願いします。

<https://forms.gle/iZTyxvUZy6vH44iz8>



【定員】15名

【締切】2025年3月2日(日)開始前まで

- ★先着順／定員に達し次第締切
- ★当日、会場に直接お越しくくださった方も歓迎です。

当日のスケジュール

11:40	受付開始
11:50～12:00	はじめの会
12:00～12:30	セッション1
12:40～13:10	セッション2
13:10～13:30	ふりかえり

お問い合わせ

言語文化教育研究学会 交流委員会

MAIL interact@alce.jp

ALCE

一般社団法人

言語文化教育研究学会

Association for Language and Cultural Education

本のあらすじ

1) てらむら ゆり さん

『「感情が言える居場所」を作りたくて、奮闘した話』



静岡市出身。
大学入学後、東京へ移住し、
小学生向け学習教室を立ち
上げる。現在、大学院生。

修士課程に在籍中、NPO法人や社会福祉協議会と連携し、「ルーツによらず、誰でも学ぶ機会をもつこと」を目指して地域の学習教室を立ち上げました。立ち上げ初期は手探りの状態で、ビラ配りなど地道な仕事も多く、時には注意を引こうとする子や、構ってもらいたいが故に攻撃的になる子に叩かれて傷つき、自信がなくなることもありました。しかし、必要とされる居場所を作ることに喜びを感じ、この活動を長い間続けることができました。さらに、愛情を裏返しに表現する子たちと接する中で、すべての子供が自分の気持ちを素直に伝えられるわけではないことがわかり、一方で学校では感情が十分に表現されていない現実にも気づきました。この気づきが、現在の言語教育への関心へとつながっています。なぜ子供達が学校に行けなくなるのか、公教育の目的は何か、言語教育からどのようにアプローチできるかについて、日々考えています。

2) はるか さん

『支援活動を通じてつなげる輪』

学部時代の外国につながる子どもへの日本語支援がきっかけとなり、大学院では、外国につながる子どもを支援する団体を立ち上げ、活動を広げてきました。現在は、一般社団法人や大学と連携した「100時間プロジェクト」を通じ、子どもの日本語学習の支援に取り組んでいます。学部時代はコロナ禍でオンラインから支援を始めましたが、大学院では対面での実施が可能となり、改めてオンラインと対面での活動の違いを実感しました。このような活動のなかで、子どもたち同士の関係性がゆっくりと深まる様子を目にし、彼らの素直な反応に励まされたことで、ここまで続けてこられたと感じます。一方で、大学内の団体であるがゆえにメンバー間の熱量の差や資金面の課題にも直面しています。現在は、後輩へバトンを託す準備を進めながら、支援活動を続けています。当日は、誰かの成長を支える活動の意義について、みなさんと語れたら幸いです。



福島市出身。千葉県の大学に入学後、子どもの日本語教育に興味を持つ。現在は大学院で日本語支援団体を立ち上げ、様々な活動を展開している。